

Take your time
自分の時間を生きて
人と自分を大事にし
一歩ずつ前へ進む

帯山中

progress

おびぶる

不定期発行

文責
熊本市立帯山中学校
教頭 田中慎一郎
tanaka.shinichiro@
city.kumamoto.lg.jp



普通って何？

「気負わず自分らしくあるために」



針のようなもので、手の平の2か所を軽く触れます。実験の平均によると針の間隔が1.5センチより近いと、私たちの脳は、2か所ではなく1か所触れられたと感じるようです。1センチ離れていれば、事実としては2か所触れているのですが、手の平にとっての事実は、1か所になります。これを感覚事実と呼びます。同じような実験をすると触れる場所が、舌先だったら1ミリ、背中だったら6.5センチになります。これから言えることは、舌先と手の平と背中にとっての事実はそれぞれにあるということです。私たちは、脳で感じたものを事実と認識します。

だとすれば、普通の感覚ってどういうことを指すのでしょうか。私が中学時代、先生に「普通はそ

う思わないでしょ！」と言われたことがあります。その時、私は疑問を持ちました。先生が言った普通って何だろうと思ひ、その正体を探りたくなったのです。当時、私は、「世の中の普通は、多くの人が感じる感覚のことで、少数派が感じていることは、普通ではないということになっている。」と考えました。多数派ではない、もしくは一般的ではないと言われればわかるのですが、あなたは普通ではないと言われると、その人に言っている普通って何なんだろうと異論を唱えたくになります。

多数派が正しく、少数派が間違っているということは決してありません。感じ方も自由で、人それぞれであって良いものです。もしも生徒の皆さんの中に自分は普通ではな

いかかもしれないと思って悩んでいる人がいるとすれば、自分を責める理由はどこにもありません。少数派であっても良いのです。

カタリバの取組であったり、教頭がラジオに毎週出演したり、新聞の連載を書いたり、それは一般的ではないかもしれませんが、多くの人がしていないからといって、生徒のためになると考えている取組をしない理由にはなりません。自分らしくあり続けるためには、自分のことを自分で認めることが大切です。みんなが違うように感じているからといって、自分がおかしいと思わなくても良いのです。生徒の皆さんには、胸を張って自分の人生を生きてほしいと願います。

それに、感じ方は、時

とともに変わります。私たちは、常に変化をしていく生き物です。1年前の自分を振り返ると、今と随分考え方や感じ方が違うのを実感するでしょう。大人も子供も、常に変わっていくものだと思えば、ますます「普通」というものにとられすぎて、負担に感じる必要がないことがわかります。

ご家庭でお子さんといっしょに「普通」について話し合ってみるのもよいかもしれませんね。

ネットの中にも 事実はたくさん

SNSトラブルも同じような仕組みで起こることがあります。端末画面の向こうにいる相手には、自分と違う事実があります。そのことを理解するだけで、腹を立てずにトラブルを回避することが出来ます。ネットでモヤッと気持ちになったときは、事実がたくさんあることを思い出してほしいです。

ぼちぼちいこう

little by little



アウトドアかインドアかと問われれば、虫がいなくてシャワーもあってトイレがきれいな場所でのアウトドアが好きな田中です。自然に抱かれ、ぼーっとすることも大切だとは思ひながら、つつい暇なときはスマホに手を伸ばしてしまいます。

▼SNSには、いろんな人の投稿の間に宣伝が出るものもあります。そこで、最近気づいたのですが、広告で表示されるネット通販がやたらと、プロテクターだのヘルメットだの金具などを、私に勧めて来るのです…見たこともないものばかりで、結局気になって何に使うものか、調べてしまいます… ▼その結果わかったことですが、そのネット通販は、どうも私を崖に登らせようとしてくるのです(°Д°) クライミングなんてしたことないし、興味もありません。おそらく、過去に私が検索した何かをAIが感知してそうなっているのか、それとも勧められたアイテムが何に使われるのかわからず、興味を持って毎回調べるから、このようなことになっているのか… よくわかりませんが、とにかく本格的に崖に登らせようとしてきます。だって、テントまで買わせようとするんですよ。イメージは2泊3日の崖登りです…▼ネットって怖いんですね。SNSを見ただけで、その人が何に興味を持っているかもわかってしまうし、本当はそうではないのに誤解もされてしまいます。▼気軽に「いいね」を押すのも良いですが、その「いいね」は誰かから見られている可能性があることを知っておいて損はありません。ちなみに、私の前にはいつも乗り越えなくてはならない壁はありますが、クライミングに興味はありません(笑)